

釧路市のコンパクトなまちづくりについて

「釧路市の今後のまちづくりに関するアンケート」の回答にあたり、背景としてご理解していただきたいことがらをお示しします。

1. 市街地の現状

釧路市は、北側に釧路湿原が広がり、市街地は東西に約 20 km という細長く広い形状で、二つの大きな川により西部・中部・東部に分断されています。

駅や北大通周辺の都心部、主要な幹線道路沿いに商業地、その周りに住宅地が形成され、港湾や炭鉱関連施設の周辺は工業地となっています。中部・西部北側の住宅地は比較的新しく、ショッピングセンターや生活に必要な施設もあり、人口の多い地域です。東部は古くからの住宅地で人口も多い地域ですが、一方で住民の高齢化が急速に進んでいる地域でもあります。

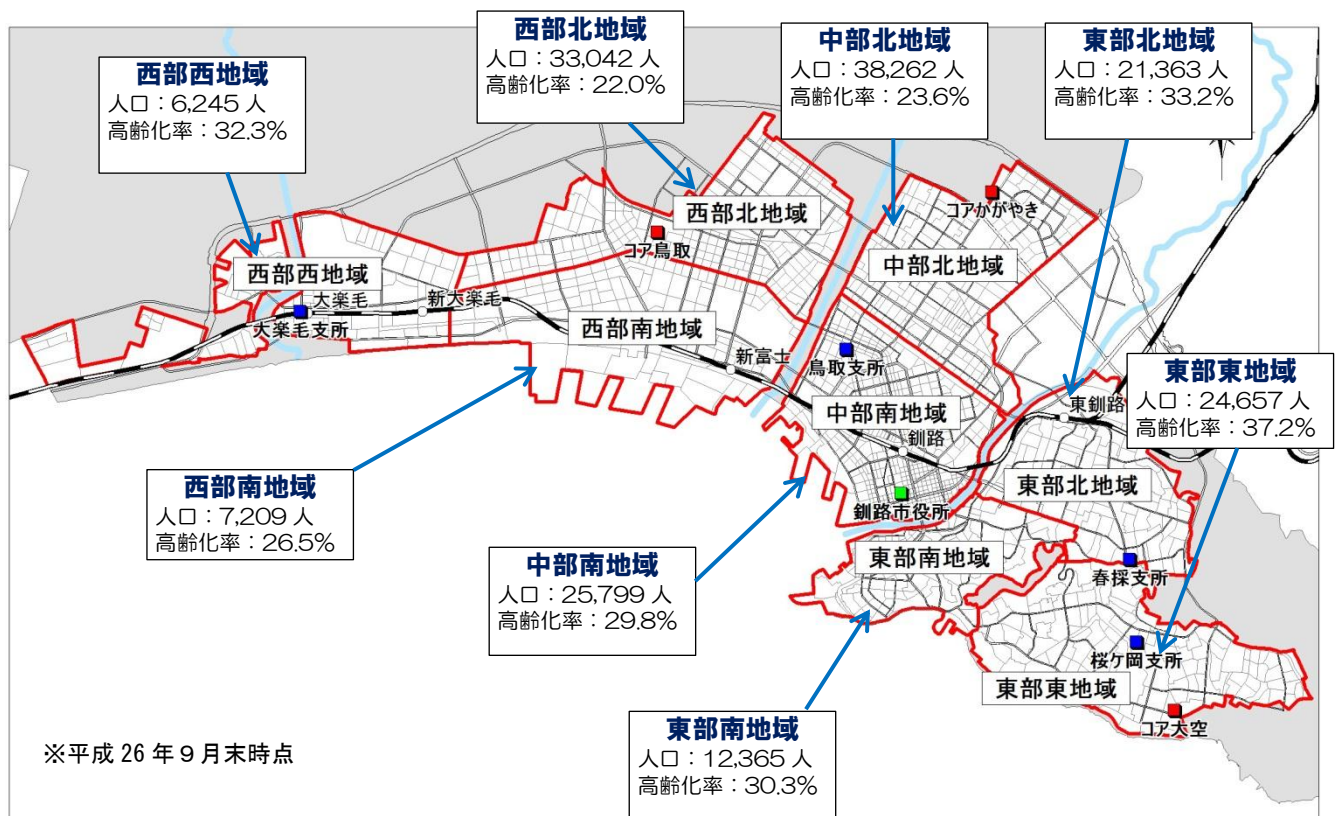


図 市街地の状況

2. コンパクトなまちづくりの必要性

(1) 釧路市の将来人口動向

釧路市の市街地における人口総数は、平成22年から平成42年までの20年間で約4万人減少すると推計されています。

高齢化は全国的に進行しており、釧路市の推計で見ると、高齢化率は平成42年に37%まで上昇し、3人に1人以上が65歳以上の高齢者となることが予測されます。

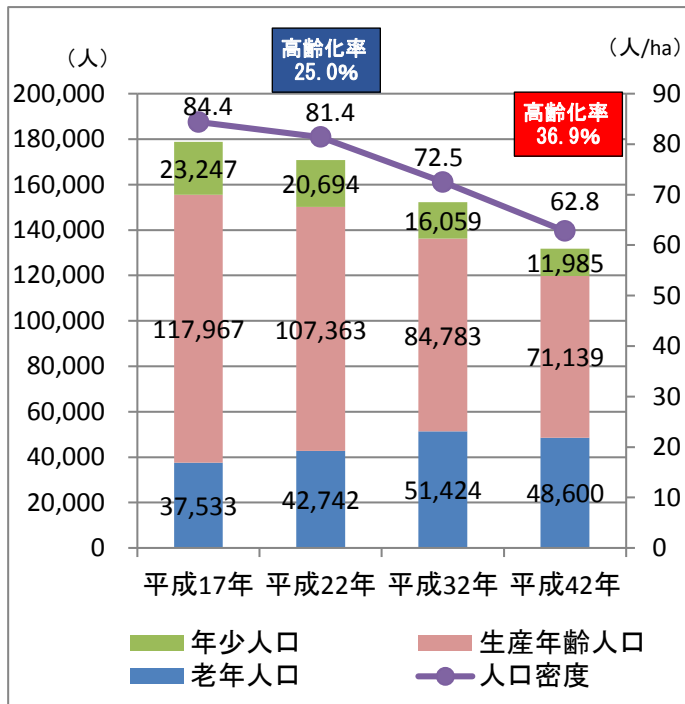
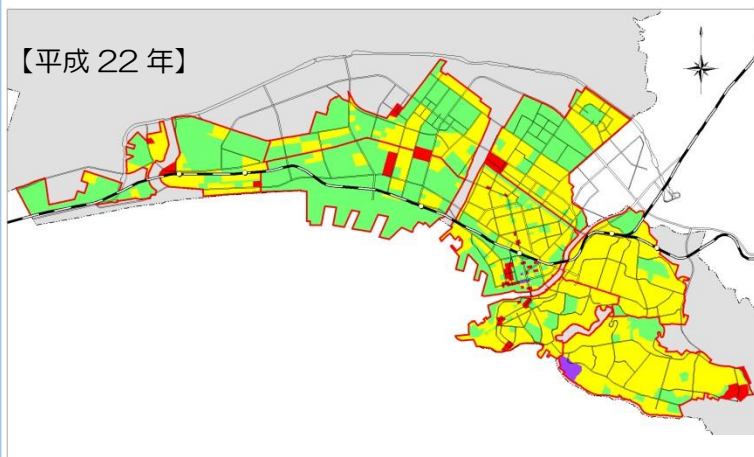


図 将来人口動向（人口密度）



地区別の高齢化率の変化をみると、東部のほとんどの地域が40%以上となるほか、中部や西部の住宅地でも、全体的に高齢化が進行していくことが予測されます。

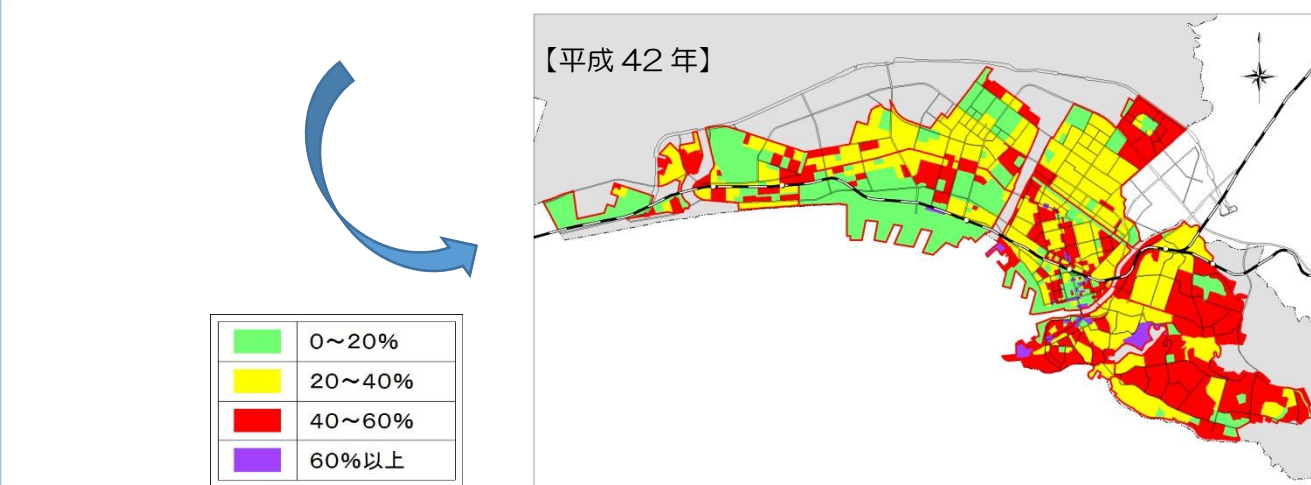


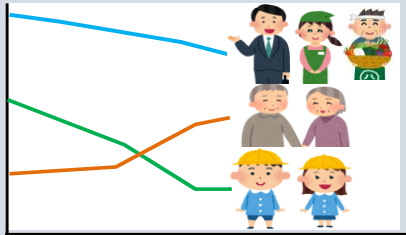
図 地域別高齢化率の変化

(2) 人口減少や高齢化による影響

住環境の悪化

①地域産業衰退への影響

需要の減少や働き手不足により地域の産業・経済活動が衰退し、雇用の場や市の税収減にもつながります。



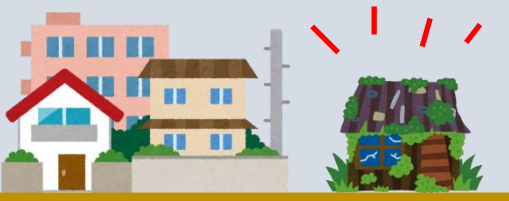
②地域コミュニティの衰え

町内会などの地域コミュニティの担い手が不足し、お年寄りや子どもの見守り、防災、お祭りといった、地域の活動が減少していきます。



③空地、空き家の増加

管理が不十分な空き家や空地は、地域の景観を損ねたり、防犯の面から地域の安全確保に支障をきたすおそれがあります。



④生活を支えるサービスの提供が困難

税収入が減少し財政状況が厳しい中、広い市街地全てに等しく、道路や公園などのインフラ整備や行政サービスを行っていくことが難しくなります。



高齢化による住み手の変化

⑤遠距離の移動が困難

自家用車の移動が多い釧路市ですが、高齢化により運転ができなくなると、広い市街地の中で生活することが困難になります。



都市の“高齢化”

⑥老朽化した施設の急増

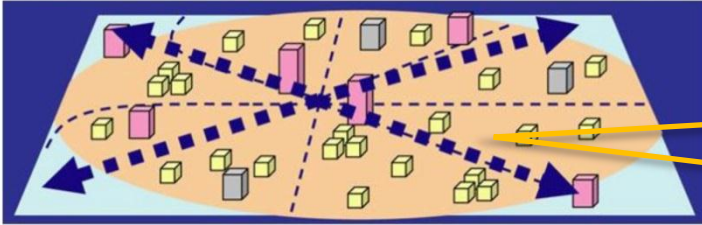
人口増加に合わせて整備してきた、道路・下水道など都市の基盤となるインフラや、公共施設が老朽化し、建替えや更新が必要となります。



3. コンパクトなまちづくりの考え方

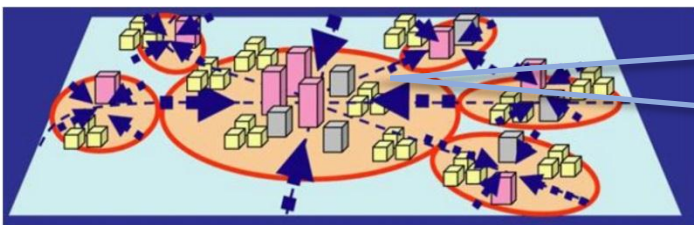
市は、平成24年に「釧路市コンパクトなまちづくりに関する基本的考え方」をまとめています。市のコンパクトなまちづくりでは、市街地を今以上広げないことを基本としながら、都市機能(商業、医療・福祉、行政、業務、交通など日常生活に必要な機能)をいくつかの「拠点」へと集めていきます。さらに、拠点のまわりに居住が集まり、公共交通で行き来ができるような効率的なまちを目指します。

【都市機能や居住が広範囲に散らばったまち】



- 都市機能や居住の拡散
- 生活に必要な施設までの移動距離が大きい
- 自動車中心の交通体系

【都市機能や居住が拠点に集まったまち】



- 拠点到都市機能や居住が高い密度で立地
- 拠点周辺に住むことで、徒歩や自転車で生活に必要な施設の行き来ができる
- 施設整備や行政サービスの効率化

コンパクトなまちづくりで、誰もが暮らしやすいまちへ

都市機能や居住を集める「拠点」

都心部をはじめ、現状で、日常生活に必要な都市機能が一定程度集まった8地区を「拠点」とします。今後、拠点と行き来するための公共交通の利便性向上を図りつつ、さらに都市機能や居住を誘導していくことを目指します。

